



Sun N1 System Manager 1.1 コマ ンド行レファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-4041
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2Netra、N1、Sun Fire、は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標あるいは登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.1 Command Line Reference Manual

Part No: 819-2669



050921@13215



目次

はじめに 9

1	コマンド行のヘルプ	13
	コマンドのヘルプ	13
	help コマンド	13
	add	14
	add group	14
	add osprofile	15
	add role	16
	add user	17
	add server	17
	connect	18
	connect server	18
	create	19
	create firmware	19
	create group	20
	create notification	21
	create os	23
	create osprofile	24
	create role	25
	create update	26
	create user	27
	delete	28
	delete firmware	28
	delete group	28
	delete job	29

delete notification 29
delete os 29
delete osprofile 30
delete role 30
delete server 30
delete update 31
delete user 31
discover 32
exit 33
load 33
load group 33
load server 35
remove 38
remove group 38
remove osprofile 38
remove role 39
remove server 40
remove user 40
reset 41
reset group 41
reset server 41
set 42
set firmware 42
set group 43
set notification 45
set os 45
set osprofile 46
set role 49
set server 49
set session 51
set user 52
show 52
show firmware 52
show group 53
show job 54
show log 56
show notification 57
show os 58

show osprofile 58
show privilege 59
show role 59
show server 59
show session 61
show update 61
show user 62
start 62
start group 63
start notification 63
start server 64
stop 64
stop group 65
stop job 65
stop notification 65
stop server 66
unload 66
unload group 66
unload server 67
オブジェクトのヘルプ 67
firmware 68
group 69
job 69
log 69
notification 70
os 70
osprofile 70
privilege 70
role 71
server 71
session 71
update 72
user 72

例目次

はじめに

『Sun N1™ System Manager コマンド行リファレンスマニュアル』は、対話モードまたは非対話モードのいずれかで `n1sh help` コマンドによって表示されるオンラインヘルプと同じ内容を提供しています。このマニュアルは、N1 System Manager で使用可能なすべてのコマンドのリファレンスとして使用できます。

対象読者

このマニュアルは、N1 System Manager ソフトウェアが動作するプロビジョニング可能なサーバーの管理を担当するシステム管理者を対象にしています。このマニュアルは、読者に次の基礎的な知識があるものと想定しています。

- Linux および Solaris™ オペレーティングシステム、各オペレーティングシステムが提供するネットワーク管理ツールに関する知識
- Sun Microsystems、Cisco などのさまざまなベンダーのネットワーク機器およびネットワークデバイスに関する知識
- ネットワークデバイスの相互接続およびケーブル接続に関する知識

関連マニュアル

次のマニュアル、ヘルプには、N1 System Manager のインストール、使用に役立つ情報が掲載されています。

- 『Sun N1 System Manager 1.1 の概要』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 インストールおよび構成ガイド』

- 『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』
- 『Sun N1 System Manager 1.1 ご使用にあたって』

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://www.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	http://www.sun.com/supporttraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の 名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm</code> <i>filename</i> と入力します。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep `^#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING`</code>

シェルプロンプトについて

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

第 1 章

コマンド行のヘルプ

ここでは、コマンド行で `help` コマンドを使用して表示できるヘルプについて説明しています。

コマンドのヘルプ

`help` コマンド

ヘルプは、次の方法で表示することができます。

- `help command - help` と入力すると、使用可能な *command object* コマンドの一覧とそれぞれのコマンドの説明が表示されます。
- `help command object - command object` の使用法の詳細が表示されます。
- `help object` - オブジェクトの詳細情報が表示されます。

使用可能なコマンドを次の表に示します。

コマンド	機能説明
<code>add</code>	オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。
<code>connect</code>	プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。
<code>create</code>	N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成 (またはコピー) します。
<code>delete</code>	N1 System Manager からオブジェクトを削除します。

コマンド	機能説明
discover	管理対象にする新しいサーバーを検出します。
exit	N1-ok> シェルを終了します。
help	コマンドまたはオブジェクトに関するヘルプを表示します。help コマンドの代わりに ? を使用することもできます。
load	サーバーまたはサーバーグループにソフトウェアをインストールします。
remove	オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。
reset	サーバーまたはサーバーグループの電源をオフにしてから、オンにします。
set	サーバー、サーバーグループ、またはオブジェクトで属性を変更します。
show	オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。
start	オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばサーバーの電源を入れて起動することができます。
stop	オブジェクトを無効にします。たとえばサーバーを停止して電源を切ることができます。
unload	サーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

指定可能なオブジェクトについては、[67 ページの「オブジェクトのヘルプ」](#)の項で説明しています。

add

オブジェクトまたはグループにメンバーを追加します。

機能説明

add コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 group、osprofile、role、server、user。

help add *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

add group

サーバーグループにプロビジョニング可能なサーバーを追加し、複数のサーバーの管理操作を行いやすくします。

形式

- サーバグループに特定の 1 つ以上のサーバを追加する場合

```
add group group server server[,server...]
```

- 使用可能なすべてのサーバをサーバグループに追加する場合

```
add group group server all
```

パラメータ

- *all* – サーバグループにすべてのサーバを追加します。
- *group* – サーバグループの名前です。
- *server* – 追加するサーバの管理名です。

add osprofile

既存の OS プロファイルにディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを追加します。

機能説明

ディストリビューショングループが指定されなかった場合、Solaris(TM) オペレーティングシステムには Core ディストリビューショングループ、Red Hat オペレーティングシステムには Base ディストリビューショングループ、SUSE オペレーティングシステムには Default Installation グループが使用されます。有効な Solaris プロファイルには、少なくとも 1 つのパーティション (ルート)、有効な Linux プロファイルには少なくとも 2 つのパーティション (ルートおよびスワップ) が必要です。

形式

- OS プロファイルにディストリビューショングループを追加する場合

```
add osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup
```

- OS プロファイルにディスクパーティション情報を追加する場合

```
add osprofile osprofile partition partition device device maxsize maxsize size size sizeoption sizeoption
```

- OS プロファイルに OS アップデートを追加する場合

```
add osprofile osprofile update update
```

- OS プロファイルにカスタムインストールスクリプトを追加する場合

```
add osprofile osprofile script script type type
```

パラメータ

- *device* – パーティション用のディスクスライスです。例: `c1t1d0s1` (Solaris) または `sda` (Linux)。
- *distributiongroup* – インストールするディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。ディストリビューショングループを指定しない場合、次のグループがインストールされます。Core System Support (Solaris)、Base (Red Hat)、または Default Installation (SUSE)。`show os os` コマンドを使用し、OS のディストリビューショングループ一覧を表示することができます。
- *maxsize* – (Red Hat のみ) ファイルシステムの最大サイズ (M バイト単位) です。このオプションを使用し、*sizeoption* の `free` 値に制限を設けることができます。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。
- *partition* – パーティションのマウントポイント名です。デフォルト値は `/` (root) です。
- *script* – カスタムインストールスクリプトの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *size* – ファイルシステムのサイズ (M バイト単位) です。このオプションは、*sizeoption* を `fixed` 値に設定して指定する必要があります。
- *sizeoption* – ファイルシステムのサイズの決定方法です。有効な値には次のようなものがあります。
 - `fixed` – ファイルシステムは、*size* 属性で設定されたサイズに設定されます。
 - `free` – ディスク上の残りの未使用領域をファイルシステム用に使用します。Red Hat プロファイルの場合は、*maxsize* を指定してファイルシステムのサイズを制限できます。
- *type* (パーティションの追加) – ファイルシステムの種類です。デフォルト値は、Solaris の場合は `ufs`、Linux の場合は `ext3` です。有効な値には次のようなものがあります。
 - Solaris: `swap` または `ufs`
 - Red Hat: `ext2`、`ext3`、`swap`、または `vfat`
 - SUSE: `ext2`、`ext3`、`jfs`、`reiser`、`swap`、または `xf`
- *type* (スクリプトの追加) – インストール中にカスタムスクリプトを実行するタイミングです。有効な値には次のようなものがあります。
 - `pre` – インストールの前にスクリプトを実行します (例: ドライバ)。
 - `post` – インストール後にスクリプトを実行します。
 - `postnochroot` – インストール後にスクリプトを実行します。ただし、スーパーユーザー (root) で実行する必要はありません。
- *update* – OS アップデートの名前です。

add role

ロールに権限を追加します。

形式

- ロールにすべての権限を追加する場合

```
add role role privilege all
```

- ロールに特定の 1 つ以上の権限を追加する場合

```
add role role privilege privilege [, privilege...]
```

パラメータ

- *all* – ロールにすべての権限を追加します。
- *role* – ロールの名前です。権限は、システムの次のデフォルトロールには追加できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。
- *privilege* – ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。

add user

ユーザーにロールを追加します。ロールが追加されたユーザーは、そのロールの役割を果たすことが可能になり、そのロールに関連付けられている権限を得ることができます。

形式

- ユーザーにロールを追加します。

```
add user user role role [, role...]
```

パラメータ

- *role* – ユーザーに追加するロールの名前です。show role all コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。
- *user* – ユーザーの名前です。

add server

プロビジョニング可能なサーバーにサポート機能を追加します。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーに OS 監視および基本管理サポートを追加する場合

```
add server server feature osmonitor agentip agentip agentssh agentssh
```

- プロビジョニング可能なサーバーに基本管理サポートを追加する場合

```
add server server feature basemanagement agentip agentip agentssh agentssh
```

パラメータ

- *agentip* – プロビジョニング可能なサーバーで OS によって使用される IP アドレスを指定します。サーバー上のプロビジョニング可能なネットワークインタフェースの IP アドレスでなければなりません。
- *agentssh* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの root 権限が必要です。*agentssh* は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。
ssh-username/ ssh-password。
- *basemanagement* – OS アップデートの配備およびリモートコマンドのサポートを提供します。
- *osmonitor* – OS 監視および *basemanagement* 機能のサポートを提供します。これによって、サーバーの OS リソースのステータス情報 (使用状況) を監視することができます。詳細は、*show server* コマンドを参照してください。
- *server* – サーバーの管理名です。

connect

プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

connect コマンドは、*server* オブジェクト上で使用することができます。

詳細を参照するには、*help connect server* と入力してください。

connect server

プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

機能説明

connect server コマンドを使用して、インストールを監視したり、管理作業を行えるようにします。ほとんどのハードウェアプラットフォームでは、ログインする最初のユーザーに、シリアルコンソール上での読み取り、書き込みの権限が付与され、次のユーザーセッションは読み取り専用モードになります。一部のプラットフォームでは、同じサーバー上での複数のシリアルコンソールセッションは許可されていません。次のエスケープシーケンスを使用すると、いつでもシリアルコンソール接続を終了できます。

ALOM ベースのシステム – # .

Sun Fire(TM) X4000 シリーズのシステム – ESC (

Sun Fire V20z および V40z システム – ^E c .

このコマンドは、ブラウザインタフェースのコマンド行では使用できないことに注意してください。ただし、ブラウザインタフェースでは、「アクション」メニューの「シリアルコンソールを開く」を選択することによってサーバーのシリアルコンソールにアクセスすることができます。また、このコマンドはユーザーの入力が必要であるため、`n1sh -f` コマンドで使用するカスタム N1 System Manager スクリプト内で使用しないでください。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーのシリアルコンソールに接続します。

```
connect server server
```

パラメータ

- `server` – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

create

このコマンドは、N1 System Manager に新しいオブジェクトを作成します。また、N1 System Manager の外部にすでに存在するオブジェクトをコピーすることもできます。

機能説明

`create` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。firmware、group、notification、os、osprofile、role、update、user。

`help create object` と入力すると、詳細情報を得ることができます。

N1 System Manager へのプロビジョニング可能なサーバーの追加については、[32 ページの「discover」](#) を参照してください。

create firmware

N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。保存したファームウェアアップデートは、プロビジョニング可能なサーバーにインストールできます。

形式

- N1 System Manager に、ファームウェアアップデートをコピーします。

```
create firmware firmware [description description] model model [,model] [type type] url url vendor vendor [
```

パラメータ

- *description* – ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの一意の名前です
- *model* – ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra(TM) 240
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *type* – ファームウェアアップデートの種類です。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネル
 - SP – サービスプロセッサ
- *url* – コピーするファームウェアアップデートへの URL パスです。管理サーバーからアクセス可能なファイルの場合は `file:///`、Web サイト上に存在するファイルの場合は `http://` を使用します。
- *vendor* – ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* – ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

create group

新しいサーバグループを作成します。ビジネスまたは管理上の必要性に応じてプロビジョニング可能なサーバをグループにまとめることができます。

形式

- 新しいサーバグループを作成し、サーバを追加する場合

```
create group group server server [,server]
```

- 新しいサーバーグループを作成し、すべてのサーバーを追加する場合

```
create group group server all
```

パラメータ

- *all* – サーバーグループにすべてのサーバーを追加します。
- *group* – 新しいサーバーグループの名前です。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

create notification

新しい通知規則を作成します。

形式

- 新しい通知規則を作成します。

```
create notification notification destination destination topic topic type type [description description]
```

パラメータ

- *description* – 通知規則の説明です。
- *destination* – 通知の送信先です。この値は、指定されている *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* – 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *snmp-host[:port]* – SNMP ホストです。 *snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、 *port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *notification* – 通知規則の名前です。
- *topic* – 通知のトリガとなるイベントの種類です。有効な値には次のようなものがあります。
 - Action.Logical.FirmwareCreate (ファームウェア作成完了)
 - Action.Logical.FirmwareDelete (ファームウェア削除完了)
 - Action.Logical.JobCompleted (ジョブ完了)
 - Action.Logical.JobStarted (ジョブ開始)
 - Action.Logical.ProfileCreate (OS プロファイル作成完了)
 - Action.Logical.ProfileDelete (OS プロファイル削除完了)
 - Action.Logical.OSDeployComplete (OS 配備完了)
 - Action.Logical.OSDeployStart (OS 配備開始)

- Action.Physical.AddCoreJobSuccess (基本管理サポート追加完了)
- Action.Physical.AgentIPJobSuccess (機能サポートの変更完了)
- Action.Physical.AlreadyKnown (検出済み時のサーバー検出)
- Action.Physical.Discovered (サーバー検出済み)
- Action.Physical.DriverNotFound (サーバー検出時にドライバなし)
- Action.Physical.FWNotCompatible (ファームウェアレベルは、互換性なし、またはサポートされていない)
- Action.Physical.InitialAddOsmJobSuccess (OS 監視および基本管理サポートの追加完了)
- Action.Physical.IPUnreachable (サーバー検出時に IP アドレス到達不能)
- Action.Physical.LoadUpdateSuccess (OS アップデートの配備成功)
- Action.Physical.LoadUpdateFailure (OS アップデートの配備失敗)
- Action.Physical.LoadUpdateCanceled (OS アップデートの配備取り消し)
- Action.Physical.MultipleAuths (サーバー検出時に複数の権限)
- Action.Physical.MultipleIPs (サーバー検出時に複数の IP)
- Action.Physical.RemoteCmdFailure (リモートコマンド失敗)
- Action.Physical.RemoteCmdSuccess (リモートコマンド成功)
- Action.Physical.RemoteCmdTimedOut (リモートコマンドのタイムアウト)
- Action.Physical.RemoteCmdUnauthorized (リモートコマンドの権限なし)
- Action.Physical.RemoveOsmJobSuccess (OS 監視サポートの削除完了)
- Action.Physical.ServerDelete (サーバーの削除完了)
- Action.Physical.ServerStateChange (サーバーの変更完了)
- Action.Physical.Unauthorized (サーバー検出の権限なし)
- Action.Physical.UnloadUpdateSuccess (OS アップデートのアンロード成功)
- Action.Physical.UnloadUpdateFailure (OS アップデートのアンロード失敗)
- Action.Physical.UnloadUpdateCanceled (OS アップデートのアンロード取り消し)
- EReport.Logical.ThresholdExceeded (OS リソースしきい値超過)
- EReport.Physical.DomainException (ドメイン例外)
- EReport.Physical.Exception (リモートコマンド例外)
- EReport.Physical.FWMgmtException (ファームウェアアップデート例外)
- EReport.Physical.IOException (入出力例外)

- `EReport.Physical.OpGrpException` (サーバー検出操作グループ例外)
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownOS` (リモートコマンドで未知の OS)
- `EReport.Physical.RemoteCmdUnknownServer` (リモートコマンドで不明なサーバー)
- `EReport.Physical.ThresholdExceeded` (ハードウェアの健全性しきい値超過)
- `Lifecycle.Logical.AddServer` (グループへのサーバー追加完了)
- `Lifecycle.Logical.ChangeSessionRole` (セッションロール変更完了)
- `Lifecycle.Logical.CreateGroup` (グループの作成完了)
- `Lifecycle.Logical.CreateUpdate` (OS アップデートの作成完了)
- `Lifecycle.Logical.DeleteGroup` (グループの削除完了)
- `Lifecycle.Logical.DeleteUpdate` (OS アップデートの削除完了)
- `Lifecycle.Logical.RemoveServer` (グループからのサーバーの削除完了)
- `Lifecycle.Physical.DBUpdateFailed` (ファームウェアアップデートでデータベースの更新失敗)
- `Lifecycle.Physical.InvalidState` (ファームウェアアップデートで無効なデバイス状態)
- `Lifecycle.Physical.ObjectJobNotFound` (処理用のサーバーなし)
- `Lifecycle.Physical.UpdateSucceeded` (ファームウェアのアップデート成功)
- *type* – 通知の送信方法です。有効な値は、`email` (電子メールアドレスに送信) および `snmp` (SNMP ホストに送信) です。

create os

OS イメージを管理サーバーにコピーします。これにより、プロビジョニング可能なサーバーにインストールすることができるようになります。

機能説明

ISO ファイル、CD、または DVD から呼び出された OS ディストリビューションの OS イメージをコピーすることができます。OS ディストリビューションは、管理サーバーの `/var/opt` ディレクトリに保存されます。そのため、コピーする OS ディストリビューションを保持する十分なディスクの空き容量が必要です。

N1 System Manager は、Solaris OS CD および CD ISO ファイルのコピーはサポートしていないことに注意してください。コピーには、Solaris DVD または DVD ISO ファイルを使用してください。

複数枚のインストール CD から OS ディストリビューションをコピーする場合は、同じ OS ディストリビューション名を指定して `create os` コマンドを複数回実行する必要があります。たとえば 2 枚の CD で提供されている OS ディストリビューション

をコピーする場合は、最初の CD を挿入してから、`create os` コマンドを実行し、そのジョブが完了するのを待ちます。そして最初のジョブが完了したら、2 枚目の CD を挿入し、再度 `create os` コマンドを実行し、そのジョブが完了するのを待ちます。2 つ目のジョブが完了すると、OS ディストリビューションのインストールが成功したことになります。

OS ディストリビューションを新しく作成すると、その OS ディストリビューションごとに、ディストリビューションと同じ名前を使用してデフォルトの OS プロファイルが自動的に作成されます。デフォルトのプロファイルは、例として示されます。多くの場合、使用しているハードウェアに合致するようにデフォルトのプロファイルを更新する必要があります。更新するよりも、単に新しいプロファイルを作成するほうがより簡単な場合があります。`show osprofile osprofile` コマンドで、OS プロファイルの構成情報を表示できます。

形式

- ISO ファイルから OS ディストリビューションをコピーする場合

```
create os os file file[,file...]
```

- インストール CD/DVD から OS ディストリビューションをコピーする場合

```
create os os cdrom cdrom
```

パラメータ

- *file* – 管理サーバーからアクセス可能な ISO ファイルの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *cdrom* – インストール CD/DVD の絶対パスです。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。

create osprofile

新しい OS プロファイルを作成します。

機能説明

`create osprofile` コマンドに加え、OS プロファイルを使用できるようにするには、`add osprofile` コマンドをディストリビューショングループ、パーティション情報、リソース、スクリプトを追加する必要があります。

このコマンドを使用し、既存のプロファイルのクローン (コピー) を作成することもできます。プロビジョニング可能なサーバーのインストールに使用したプロファイルを変更するか、そのコピーを作成する場合は、このコマンドを使用する必要があります。

形式

- 新しい OS プロファイルを作成する場合

```
create osprofile osprofile os os rootpassword rootpassword [description description] [flar flar] [la
```

- 既存の OS プロファイルのコピーを作成する場合

```
create osprofile osprofile clone oldprofile
```

パラメータ

- *os* – インストールする OS ディストリビューションの名前です。
- *description* – 新しい OS プロファイルの説明です。
- *flar* – (Solaris のみ) フラッシュアーカイブファイルの名前です。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *language* – インストールでのデフォルトの言語です。デフォルト値は en_US (英語) です。

Linux プロファイルの場合、有効な値は cs_CZ、 da_DK、 de_DE、 en_US、 es_ES、 fr_FR、 is_IS、 it_IT、 ja_JP.eucJP、 ko_KR.eucKR、 nl_NL、 no_NO、 pt_PT、 ru_RU.kOI8r、 sl_SI、 sv_SE、 uk_UA、 zh_CN.GB2312、 zh_TW.Big5 です。

Solaris プロファイルの場合、有効な値は C、 en_US.ISO8859-15、 en_US.ISO8859-1、 en_US です。

- *rootpassword* – インストール後のサーバーの root パスワードです。
- *osprofile* – 新しい OS プロファイルの名前です。
- *oldprofile* – コピーを作成する OS プロファイルの名前です。
- *timezone* – インストール場所のタイムゾーンです。デフォルト値は gmt です。

Linux プロファイルの場合、有効な値は timeconfig コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の /usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリにあるディレクトリおよびファイルに含まれています。timezone 値は、 /usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリへの相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の timezone 値は US/Mountain です。日本の timezone 値は Japan です。

create role

新しいロールを作成します。権限が指定されない限り、新しいロールはデフォルトにより権限追加しません。

形式

- 1つ以上の権限の新しいロールを作成します。

```
create role role [description description] [privilege privilege[,privilege...]]
```

パラメータ

- *description* – 新しいロールの説明です。
- *privilege* – ロールに追加する権限の名前です。show privilege all コマンドを使用し、指定可能な権限の一覧を表示できます。add role コマンドを使用し、あとで権限を追加することもできます。
- *role* – 新しいロールに使用する名前です。

create update

N1 System Manager に OS アップデートをコピーします。保存した OS アップデートを、プロビジョニング可能なサーバーにインストールできます。

機能説明

追加できる OS アップデートは、次の3種類です。Linux オペレーティングシステム用の RPM、Solaris オペレーティングシステム用のパッケージ、パッチ。

形式

- Linux RPM、Solaris パッケージ、Solaris パッチのいずれかから1つ以上の OS アップデートをコピーします。

```
create update update file file ostype ostype[,ostype...] [adminfile adminfile] [responsefile responsefile]
```

パラメータ

- *adminfile* – (Solaris パッケージのみ) 管理ファイルの絶対パスです。
- *file* – 管理サーバーまたは、Linux RPM または Solaris パッチ/パッケージの URL からファイルへの絶対パスでアクセス可能です。Linux RPM は *.rpm ファイルである必要があります。Solaris パッケージは *.pkg か *.tar ファイル、Solaris パッチは *.zip ファイルです。.tar ファイル名は、tar 展開後の最上位のディレクトリ名と同じである必要があります。たとえば tar ファイルが SUNWstade.tar の場合、tar の展開後の最上位ディレクトリ名は SUNWstade である必要があります。

例: /tmp/test-i386.rpm または
http://updatesite1/rpms/test-i386.rpm

- *ostype* – OS アップデートと互換性がある OS バージョンのリストです。追加する OS アップデートの種類は、指定する OS の種類と一致する必要があります。一般に、Solaris OS のアップデートでは、有効な OS の種類は 1 つだけです。有効な値には次のようなものがあります。
 - *redhat-as3* – Red Hat Enterprise Linux AS 3.0
 - *redhat-es3* – Red Hat Enterprise Linux ES 3.0
 - *redhat-ws3* – Red Hat Enterprise Linux WS 3.0
 - *redhat-as3-64* – Red Hat Enterprise Linux AS 3.0, 64-bit
 - *redhat-es3-64* – Red Hat Enterprise Linux ES 3.0, 64-bit
 - *redhat-ws3-64* – Red Hat Enterprise Linux WS 3.0, 64-bit
 - *redhat-as4* – Red Hat Enterprise Linux AS 4.0
 - *redhat-es4* – Red Hat Enterprise Linux ES 4.0
 - *redhat-ws4* – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0
 - *redhat-as4-64* – Red Hat Enterprise Linux AS 4.0, 64-bit
 - *redhat-es4-64* – Red Hat Enterprise Linux ES 4.0, 64-bit
 - *redhat-ws4-64* – Red Hat Enterprise Linux WS 4.0, 64-bit
 - *solaris9x86* – Solaris x86 Version 9 Update 7
 - *solaris10x86* – Solaris x86 Version 10
 - *solaris9sparc* – Solaris SPARC Version 9 Update 7
 - *solaris10sparc* – Solaris SPARC Version 10
 - *suse-es9* – SUSE LINUX Enterprise Server 9
 - *suse-es9-64* – SUSE LINUX Enterprise Server 9, 64-bit
- *responsefile* – (Solaris パッケージのみ) 応答ファイルの絶対パスです。
- *update* – OS アップデートの名前です。

create user

N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。ユーザーは、管理サーバーの OS にすでに存在する必要があります。ロールが指定されない限り、新しいユーザーはデフォルトによりロール追加しません。

形式

- 1 つ以上のロールを持つ N1 System Manager の新しいユーザーを作成します。

```
create user user [role role[,role...]]
```

パラメータ

- *role* – ユーザーに追加するロールの名前です。show role all コマンドを使用し、使用可能で有効なロールの一覧を表示できます。add user コマンドを使用し、あとでロールを追加することもできます。

- *user* – 新しいユーザーの名前です。名前は、管理サーバーのオペレーティングシステム上の対応するユーザーと同じである必要があります。

delete

N1 System Manager からオブジェクトを削除します。

機能説明

delete コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。firmware、group、job、notification、os、osprofile、role、server、update、user。

help create *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

delete firmware

N1 System Manager から、ファームウェアアップデートを削除します。

形式

- ファームウェアアップデートを削除します。

```
delete firmware firmware
```

パラメータ

- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。

delete group

サーバーグループを削除します。N1 System Manager からプロビジョニング可能なサーバーが削除されるわけではありません。

形式

- サーバーグループを削除します。

```
delete group group
```

パラメータ

- *group* – 削除するサーバーグループの名前です。

delete job

ジョブを削除します。

形式

- 特定のジョブを削除する場合
`delete job job`
- すべてのジョブを削除する場合
`delete job all`

パラメータ

- *all* – すべてのジョブを削除します。
- *job* – ジョブの識別番号です。

delete notification

通知規則を削除します。

形式

- 通知規則を削除します。
`delete notification notification`

パラメータ

- *notification* – 削除する通知規則の名前です。

delete os

N1 System Manager から OS ディストリビューションを削除します。プロビジョニング可能なサーバーに現在インストールされている OS プロファイルに関連付けられている OS ディストリビューションを削除することはできません。

形式

- OS ディストリビューションを削除します。

```
delete os os
```

パラメータ

- *os* – 削除する OS ディストリビューションの名前です。

delete osprofile

OS プロファイルを削除します。プロビジョニング可能なサーバーによって使用されている場合、OS プロファイルは削除できません。

形式

- OS プロファイルを削除します。

```
delete osprofile osprofile
```

パラメータ

- *osprofile* – 削除する OS プロファイルの名前です。

delete role

ロールを削除します。ユーザーに割り当てられている場合、ロールは削除できません。

形式

- ロールを削除します。

```
delete role role
```

パラメータ

- *role* – 削除するロールの名前です。

delete server

N1 System Manager からサーバーを削除します。そのサーバーは、`show server all` コマンドで得られる一覧に表示されなくなります。

形式

- N1 System Manager から、すべてのサーバーを削除する場合

```
delete server all
```

- N1 System Manager から、特定のサーバーを削除する場合

```
delete server server
```

パラメータ

- *all* – すべてのサーバーを N1 System Manager から削除します。
- *server* – サーバーの管理名です。

delete update

N1 System Manager から OS アップデートを削除します。

形式

- OS アップデートを削除します。

```
delete update update
```

パラメータ

- *update* – 削除する OS アップデートの名前です。

delete user

N1 System Manager のユーザーを削除します。管理サーバーの OS からユーザーが削除されることはありません。

形式

- N1 System Manager のユーザーを削除します。

```
delete user user
```

パラメータ

- *user* – 削除するユーザーの名前です。

discover

N1 System Manager の管理対象にする新しいプロビジョニング可能なサーバーを検出して追加します。

機能説明

サーバーが検出されるには、次の条件が満たされている必要があります。

プロビジョニング可能なサーバーの認証資格が判明しているか、サーバーが出荷時に設定された資格になっている。

プロビジョニング可能なサーバーの管理ネットワーク IP アドレスが設定されていて N1 System Manager からアクセスできるネットワーク上にある。N1 System Manager 環境への新しいプロビジョニング可能なサーバーの追加についての詳細は、『Sun N1 System Manager Site Preparation Guide』を参照してください。

形式

- サーバーを検出し、N1 System Manager に追加します。

```
discover ip [group group] [ipmi ipmi] [snmp snmp] [ssh ssh] [telnet telnet]
```

パラメータ

- *ip* – 検出するプロビジョニング可能なサーバーの管理ネットワーク IP アドレスです。次の形式で、複数の *ip* のインスタンスを指定することができます。コンマで区切って指定します。
 - *ip-address* – 単一の管理ネットワーク IP アドレス。
 - *ip-address-ip-address* – 管理ネットワーク IP アドレスの範囲。例: 10.5.10.1-10.5.10.100
 - *subnet/mask-length* – サブネットとそのマスクの長さ。例: 10.0.8/24 または 10.0.8.128/28
- *group* – 検出したサーバーの追加先のサーバーグループ名です。サーバーグループが存在しない場合は、検出中に作成されます。
- *ipmi* – 検出の認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく IPMI 資格を使用します。*ipmi* 値は IPMI パスワードです。IPMI 資格が指定されていない、かつプロビジョニング可能なサーバーが工場出荷時のデフォルト状態の場合、検出プロセスによって IPMI パスワードが *admin* に設定されます。
- *snmp* – 検出の認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく SNMP 資格を使用します。*snmp* の形式は、SNMP 資格の読み取りコミュニティ文字列です。例: *read-community*。
- *ssh* – 検出の認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく SSH 資格を使用します。*ssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。SSH 資格が指定されていない、かつプロビ

ジョニング可能なサーバーが工場出荷時のデフォルト状態の場合、検出プロセスによってサーバーの SSH ユーザー名/パスワードは、admin/admin に設定されます。

- *telnet* – 検出の認証に、サーバーの管理ネットワーク IP アドレスに基づく *telnet* 資格を使用します。*telnet* 資格を使用するのは、ALOM ベースのシステムのみです。*telnet* の形式は、*telnet* 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *telnet-username/telnet-password*。

exit

N1-ok> シェルを終了します。N1-ok> シェルがデフォルトのシェルの場合は、N1 System Manager から完全にログアウトします。デフォルトのシェルでない場合は、管理サーバーの元のシェルに戻ります。

形式

- N1-ok> シェルを終了します。

```
exit
```

load

プロビジョニング可能なサーバーにソフトウェアをインストールします。

機能説明

load コマンドは、OS ディストリビューション (OS プロファイルによって使用される)、ファームウェアアップデート、OS アップデート (パッケージ、パッチ、RPM) をインストールします。load コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group および server。

help load *object* と入力すると、詳細情報を得ることができます。

load group

プロビジョニング可能なサーバーのグループに、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデートなどのソフトウェアをインストールします。

形式

- サーバークラウドに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile ip ip networktype static [excludeserver server [, server ...]
```

- サーバグループに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合

```
load group group osprofile osprofile bootip bootip networktype networktype [ip ip] [excludeserver server[,s
```

- サーバグループに OS アップデートをインストールする場合

```
load group group update update[,update...]
```

- サーバグループにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load group group firmware firmware [force]
```

パラメータ

- *bootip* – (Linux のみ) サーバのインストールに使用する、サーバのプロビジョニング可能なネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング可能な IP ともいう) です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲は次のように指定します。*ip-address-ip-address*。例: 10.0.0.1-10.0.0.3
- *excludeserver* – 1 つ以上のサーバを、インストール対象から除外します。*server* は、プロビジョニング可能なサーバの管理名です。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択されたプロビジョニング可能な各サーバと一致する必要があります。設定が一致しない場合、アップデートは失敗します。
- *force* – サーバの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *group* – サーバグループの名前です。
- *ip* – サーバがインストールされた後に、サーバのプロビジョニング可能なネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に *bootip* (プロビジョニング可能な IP) として使用されます。この属性は、*networktype* が *static* の場合にのみ必須です。IP アドレスの範囲、またはサブネットマスクを指定することもできます。IP アドレス範囲を次のように指定します。*ip-address-ip-address* (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。
- *networktype* – サーバのインストール後の、サーバのプロビジョニング可能なネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、*static* または *dhcp* です。*networktype* を *static* に設定した場合は、必ず *ip* 属性を指定する必要があります。
- *osprofile* – OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- *update* – OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、それらは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

インストール関係の属性

次の属性は、サーバーの起動とインストールに一時的に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。これらの属性が必要となるのは、Red Hat Linux または SUSE Linux のインストール時のみです。

- `bootgateway bootgateway` – サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- `bootnameserver bootnameserver` – サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- `bootnetmask bootnetmask` – サーバーのインストールに使用するネットマスクです。

サーバー構成関係の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。N1 System Manager は、これらのすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `domainname domainname` – (Solaris のみ) インストールしたサーバーのドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、`sun.com` になります。
- `gateway gateway` – インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `kernelparameter kernelparameter` – (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。
- `nameserver nameserver` – インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- `netmask netmask` – インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。

load server

プロビジョニング可能なサーバーに、OS ディストリビューション (OS プロファイルを使用)、OS アップデート、ファームウェアアップデートなどのソフトウェアをインストールします。

形式

- 1 つ以上のサーバーに Solaris OS プロファイルをインストールする場合

```
load server server[,server...] osprofile osprofile ip ip networktype static [install-attributes] [server-c
```

- 1 つ以上のサーバーに Red Hat Linux または SUSE Linux OS プロファイルをインストールする場合。

```
load server server[,server...] osprofile osprofile bootip bootip networktype networktype [ip ip] [inst
```

- 1 つ以上のサーバーに OS アップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] update update[,update...]
```

- 1 つ以上のサーバーにファームウェアアップデートをインストールする場合

```
load server server[,server...] firmware firmware [force]
```

パラメータ

- *bootip* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用する、サーバーのプロビジョニング可能なネットワークインタフェース用の IP アドレス (プロビジョニング可能な IP ともいう) です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。 *ip-address-ip-address* (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。デフォルトでは、ファームウェアアップデートのモデルおよびベンダーの設定は、インストール用に選択されたプロビジョニング可能な各サーバーと一致する必要があります。一致しない場合は、アップデートに失敗します。
- *force* – サーバーの検証を行わずにファームウェアアップデートインストールを強制実行します。
- *ip* – サーバーがインストールされた後に、サーバーのプロビジョニング可能なネットワークインタフェースに割り当てられる IP アドレスです。この IP アドレスは、Solaris オペレーティングシステムのインストール中に、自動的に *bootip* (プロビジョニング可能な IP) として使用されます。この属性は、*networktype* が *static* の場合にのみ必須です。IP アドレスは、単一で、または複数のサーバーをインストールする場合は範囲またはサブネットマスクで指定できます。IP アドレス範囲は次のように指定します。 *ip-address-ip-address* (例: 10.0.0.1-10.0.0.3)。
- *networktype* – サーバーのインストール後の、サーバーのプロビジョニング可能なネットワークインタフェース用の IP アドレス割り当て方法を指定します。有効な値は、*static* または *dhcp* です。*networktype* を *static* に設定した場合は、必ず *ip* 属性を指定する必要があります。
- *osprofile* – OS のインストールに使用する OS プロファイルの名前です。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。
- *update* – OS アップデートの名前です。2 つ以上の OS アップデートを指定した場合は、それらは OS の種類が同じで、すべての依存関係の問題に対して適切な順序になっている必要があります。OS アップデートは、指定された順にインストールされます。

インストール関係の属性

次の属性は、1 つ以上のサーバーのインストールに一時的に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- *bootgateway bootgateway* – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するゲートウェイです。
- *boothostname boothostname* – (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストールに使用するホスト名です。

- `bootnameserver bootnameserver` – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネームサーバーです。
- `bootnetmask bootnetmask` – (Linux のみ) サーバーのインストールに使用するネットマスクです。
- `bootnetworkdevice bootnetworkdevice` – (単一サーバーのみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニング可能なネットワークインタフェースです。Solaris で有効な値は `bge0` および `bge1` です。Linux で有効な値は、`eth0` (デフォルト)、`eth1`、`eth2`、`eth3`、`eth4` です。
- `bootpath bootpath` – (単一サーバー、Solaris x86 のみ) サーバーのインストールに使用するサーバーのプロビジョニング可能な起動デバイスです。指定された場合は、`bootnetworkdevice` の値よりも優先されます。有効な値には次のようなものがあります。
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@2` – Sun Fire V20z, `bge0` (デフォルト)
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,10@3` – Sun Fire V20z, `bge1`
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@2` – Sun Fire V40z, `bge0` (デフォルト)
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@a/pci17c2,20@3` – Sun Fire V40z, `bge1`
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge0` (デフォルト)
 - `/pci@0,0/pci1022,7450@1/pci8086,1011@1,1` – Sun Fire X4000 シリーズ、`bge1`
- `console console` – (単一サーバーのみ) インストールの監視に使用可能な、サーバーのシステムコンソールのデバイス名です。デフォルトは `ttys0` (Linux)、`ttya` (Solaris) です。
- `consolebaud consolebaud` – (単一サーバーのみ) サーバーのシステムコンソールのボーレートです。デフォルトは 9600 です。
- `kernelparameter kernelparameter` – (Linux のみ) インストール中にカーネルに渡すパラメータです。

サーバー構成関係の属性

次の属性は、インストール中のサーバーのネットワーク情報の構成に使用されます。一部の属性は、単一サーバーのインストールでのみ指定できます。N1 System Manager は、単一サーバー固有ではないすべての属性にデフォルト値を提供します。

- `domainname domainname` – (Solaris のみ) インストールしたサーバーに割り当てられるドメインです。この属性が指定されない場合は、管理サーバーのドメインが使用されるか、`sun.com` になります。
- `gateway gateway` – インストールしたサーバーに割り当てられるゲートウェイです。
- `hostname hostname` – (単一サーバーのみ) インストールしたサーバーに割り当てられるホスト名です。

- `nameserver` *nameserver* – インストールしたサーバーに割り当てられるネームサーバーです。
- `netmask` *netmask* – インストールしたサーバーに割り当てられるネットマスクです。
- `networkdevice` *networkdevice* – (単一サーバーで Linux の場合のみ) サーバーのインストール後のサーバーのプロビジョニング可能なネットワークインタフェースです。デフォルトは `eth0` です。

remove

オブジェクトまたはグループからメンバーを削除します。

機能説明

`remove` コマンドは、次のオブジェクトで 사용할 수 있습니다。 `group`、`osprofile`、`role`、`server`、`user`。

`help remove object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

remove group

サーバーグループからサーバーを削除します。

形式

- サーバーグループから 1 つ以上のサーバーを削除する場合


```
remove group group server server[,server...]
```
- サーバーグループからすべてのサーバーを削除する場合


```
remove group group server all
```

パラメータ

- `all` – サーバーグループからすべてのサーバーを削除します。
- `group` – サーバーグループの名前です。
- `server` – 削除するプロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

remove osprofile

OS プロファイルから、ディストリビューショングループ、ディスクパーティション、OS アップデート、カスタムインストールスクリプトのいずれかを削除します。プロビジョニング可能なサーバーに現在インストールされているプロファイルに、このコマンドを実行することはできません。

形式

- OS プロファイルからディストリビューショングループを削除する場合

```
remove osprofile osprofile distributiongroup distributiongroup
```

- OS プロファイルからディスクパーティション情報を削除する場合

```
remove osprofile osprofile partition partition
```

- OS プロファイルから OS アップデートを削除する場合

```
remove osprofile osprofile update update
```

- OS プロファイルからカスタムインストールスクリプトを削除する場合

```
remove osprofile osprofile script script
```

パラメータ

- *distributiongroup* – 削除するディストリビューショングループ (パッケージのグループ) の名前です。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。
- *partition* – 削除するディスクパーティションのマウントポイント名です。
- *script* – 削除するカスタムインストールスクリプトの名前です。
- *update* – 削除する OS アップデートの名前です。

remove role

ロールから権限を削除します。

形式

- ロールから 1 つ以上の権限を削除する場合

```
remove role role privilege privilege [, privilege...]
```

- ロールからすべての権限を削除する場合

```
remove role role privilege all
```

パラメータ

- *all* – ロールからすべての権限を削除します。
- *role* – ロールの名前です。次のシステムデフォルトのロールの権限は削除できません。Admin、SecurityAdmin、ReadOnly。これらのロールは定義済みであり、変更できません。

- *privilege* – ロールから削除する権限の名前です。

remove server

プロビジョニング可能なサーバーから OS 監視サポートを削除します。

機能説明

削除すると、サーバーの OS リソースの状態は `uninitialized` になります。OS 監視サポートを再び追加するには、`add server` コマンドを使用します。

基本管理サポートは削除できません。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーから OS 監視サポートを削除します。

```
remove server server feature osmonitor
```

パラメータ

- *osmonitor* – サーバーから OS 監視サポートを削除します。OS リソースの状態は、`uninitialized` になります。
- *server* – サーバーの管理名です。

remove user

ユーザーからロールを削除します。

形式

- ユーザーから 1 つ以上のロールを削除する場合

```
remove user user role role [,role...]
```

- ユーザーからすべてのロールを削除する場合

```
remove user user role all
```

パラメータ

- *all* – 指定したユーザーからすべてのロールを削除します。

- *role* – ユーザーから削除するロールの名前です。show user *user* コマンドで、ユーザーに割り当てられているすべてのロールの一覧を表示できます。
- *user* – ユーザーの名前です。

reset

プロビジョニング可能なサーバーを再起動します。

機能説明

reset コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group および server。

help reset *object* コマンドで詳細情報を得ることができます

reset group

プロビジョニング可能なサーバーグループを再起動 (電源オフ後に電源オン) します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループを再起動します。

```
reset group group [force] [netboot]
```

パラメータ

- *force* – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。このオプションは、OS がインストールされていないプロビジョニング可能なサーバーの電源の停止に使用してください。
- *group* – サーバーグループの名前です。
- *netboot* – グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用しているネットワーク上にサーバーをインストールすることができます。

reset server

プロビジョニング可能なサーバーグループを再起動 (電源オフ後に電源オン) します。サーバーの構成によっては、オペレーティングシステムの起動が行われます。

形式

- プロビジョニング可能な 1 つ以上のサーバーを再起動する場合

```
reset server server [,server...] [force] [netboot]
```

- プロビジョニング可能なすべてのサーバーを再起動する場合

```
reset server all [force] [netboot]
```

パラメータ

- *all* – プロビジョニング可能なすべてのサーバーを再起動します。
- *force* – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。このオプションは、OS がインストールされていないプロビジョニング可能なサーバーの電源の停止に使用してください。
- *netboot* – 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用しているネットワーク上にサーバーをインストールすることができます。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

set

オブジェクトまたはグループで属性を変更します。

機能説明

set コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 *firmware*、*group*、*notification*、*os*、*osprofile*、*role*、*server*、*session*、*user*。

help set object コマンドで詳細情報を得ることができます。

set firmware

ファームウェアアップデートの属性を変更します。

形式

- さまざまなファームウェアアップデートの属性を変更します。

```
set firmware firmware [description description] [model model [,model]] [name name] [type type] [vendor vendor]
```

パラメータ

- *description* – ファームウェアアップデートの説明です。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* – ファームウェアアップデート用の有効なハードウェアシステムのモデルの名前です。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra 240
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *name* – ファームウェアアップデートの新しい名前です。
- *type* – ファームウェアアップデートの種類を指定します。この属性は、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ必要です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS です。
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネルです。
 - SP – サービスプロセッサです。
- *vendor* – ファームウェアアップデートベンダーの名前です。有効な値は、Sun です。
- *version* – ファームウェアアップデートのバージョン番号です。

set group

サーバグループの名前を変更するか、サーバグループ上のロケータランプまたは監視状態を変更します。

形式

- サーバグループの名前を変更する場合

```
set group group name name
```
- サーバグループの最新の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合

```
set group group refresh
```
- サーバグループの監視を有効または無効にする場合

```
set group group monitored monitored-state
```
- 特定のサーバグループ用に監視タイプにポーリング間隔を設定する場合

```
set group group monitor monitor interval interval
```

- サーバグループ上のロケータランプを点灯または消灯する場合

```
set group group locator locator-state
```

- サーバグループ上で、OS リソース属性のしきい値を設定する場合

```
set group group threshold threshold [criticallow value] [criticalhigh value]  
[warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- *group* – サーバグループの名前です。
- *interval* – 監視のためのポーリング間隔を秒単位で設定します。有効な値はゼロより大きな整数です。
- *locator-state* – サーバグループのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は *true* (点灯) および *false* (消灯) です。
- *monitor* – ポーリング間隔を設定するためにサーバグループの監視タイプを指定します。有効な値は、*hardwarehealth*、*osresources*、*network* です。
- *monitored-state* – サーバグループの監視を有効または無効にします。有効な値は、*true* (有効) および *false* (無効) です。
- *name* – サーバグループの新しい名前です。
- *refresh* – サーバグループの最新の設定および状態で管理サーバを更新します。更新される状態には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報が含まれます。
- *threshold* – 1 つ以上のしきい値を設定する OS リソース属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *cpustats.loadavg1min* – システムロードは、1 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg5min* – システムロードは、5 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg15min* – システムロードは、15 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.pctusage* – 全体的な CPU 使用率 (%) です。
 - *cpustats.pctidle* – 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
 - *memusage.pctmemused* – メモリーの使用率 (%) です。
 - *memusage.pctmemfree* – 空きメモリー率 (%) です。
 - *memusage.mbmempused* – 使用メモリー (M バイト) です。
 - *memusage.mbmempfree* – 空きメモリー (M バイト) です。
 - *memusage.pctswapused* – スワップ領域の使用率 (%) です。
 - *memusage.mbswapfree* – 空きスワップ領域 (M バイト) です。
 - *fsusage.pctused* – ファイルシステム領域の使用率 (%) です。

- *value* – サーバーのグループ上で OS リソース属性用のしきい値を設定します。
criticallow、*criticalhigh*、*warninglow*、*warninghigh* しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。*none* 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

set notification

通知規則の名前、説明、または通知先を変更します。

形式

- 通知グループの名前、説明、または通知先を変更します。

```
set notification notification [name name] [description description] [destination destination]
```

パラメータ

- *description* – 通知規則の新しい説明です。
- *destination* – 通知の新しい送信先です。送信先は、通知規則を作成したときに設定した、規則の *type* に対応している必要があります。有効な値には次のようなものがあります。
 - *email-addresses* – 電子メールアドレス (複数の場合はコンマで区切る) です。
 - *snmp-host[:port]* – SNMP ホストです。*snmp-host* は有効な SNMP ホスト名、*port* はそのホスト上の有効なポートです。
- *name* – 通知規則の新しい名前です。
- *notification* – 通知規則の名前です。

set os

OS ディストリビューションの名前を変更します。

形式

- OS ディストリビューションの名前を変更します。

```
set os os name name
```

パラメータ

- *name* – OS ディストリビューションの新しい名前です。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。

set osprofile

OS プロファイルの構成を変更します。

形式

- Solaris OS プロファイルの構成を変更します。

```
set osprofile osprofile [solaris-profile-attributes]
```

- Red Hat Linux OS プロファイルの構成を変更します。

```
set osprofile osprofile [redhat-profile-attributes]
```

- SUSE Linux OS プロファイルの構成を変更します。

```
set osprofile osprofile [SUSE-profile-attributes]
```

パラメータ

- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。

Solaris プロファイルの属性

- *description description* – OS プロファイルの説明を指定します。
- *flar flar* – フラッシュアーカイブファイルの名前を指定します。絶対パスの形式で指定する必要があります。
- *language language* – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は *en_us* です。Solaris プロファイルの場合の有効な値は、*c*、*en_US.ISO8859-15*、*en_US.ISO8859-1*、*en_US* です。
- *ldap ldap* – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は *true* および *false* です。
- *ldapsrvr ldapsrvr* – LDAP サーバー名を指定します。
- *ldapbasename ldapbasename* – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- *name name* – OS プロファイルの名前を変更します。
- *nis nis* – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、*enabled*、*disabled* です。
- *nisdmain nisdmain* – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- *nissrvr nissrvr* – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する *broadcast* を設定します。
- *rootpassword rootpassword* – インストールされているサーバーの *root* パスワードを変更します。
- *timezone timezone* – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は *gmt* です。Solaris プロファイルの場合、有効な値は、Solaris システム上の */usr/share/lib/zoneinfo* ディレクトリにあるディレクトリおよびファイル

に含まれています。timezone 値は、/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリへの相対パス名です。たとえば、米国の山岳部標準時の timezone 値は US/Mountain です。日本の timezone 値は Japan です。

Red Hat Linux プロファイルの属性

- `clearmbr clearmbr` – サーバー上のマスターブートレコードをクリアします。有効な値は `true` および `false` です。
- `description description` – OS プロファイルの説明を指定します。
- `existingpartition existingpartition` – インストール中にサーバーの既存のパーティションに行う処理です。有効な値には次のようなものがあります。
 - `all` – デフォルト値です。すべての既存パーティションを削除する
 - `linux` – すべての Linux パーティションを削除します。
 - `preserve` – 既存のすべてのパーティションを保持します。
- `initdisklabel initdisklabel` – ディスクラベルを初期化します。有効にした場合、ジオメトリおよびパーティション情報を含むディスクの最初のセクタはインストール中に初期化されます。有効な値は `true` および `false` です。
- `language language` – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は、`cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。
- `ldap ldap` – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldapserver ldapserver` – LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbasename ldapbasename` – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `md5 md5` – MD5 チェックサムを有効にします。有効な場合は、インストール中に、ファイルおよびメッセージの整合性が検査されます。有効な値は `true` および `false` です。
- `name name` – OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis nis` – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain nisdomain` – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `nisservice nisservice` – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `rebootafterinstall rebootafterinstall` – インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword rootpassword` – インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。
- `shadowpassword shadowpassword` – シャドウパスワードを有効にします。有効な値は `true` および `false` です。

- `timezone` *timezone* – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。Red Hat プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

SUSE Linux プロファイルの属性

- `description` *description* – OS プロファイルの説明を指定します。
- `ftpproxy` *ftpproxy* – インストールされているサーバー用の FTP プロキシサーバーを指定します。`proxy` 属性は、認識可能な形式である必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例:
`http://129.101.1.240:3128` または `http://proxy.provider.com:3128`
- `httpproxy` *httpproxy* – インストールされているサーバー用の HTTP プロキシサーバーを指定します。`proxy` 属性は、認識可能な形式である必要があります。HTTP プロキシサーバーの IP アドレスまたはホスト名を指定することができます。この場合ポート番号を含める必要があります。ホスト名を指定する場合は、ネームサーバーが適切に設定されている必要があります。例:
`http://129.101.1.240:3128` または `http://proxy.provider.com:3128`
- `language` *language* – インストール時のデフォルトの言語を指定します。デフォルト値は `en_us` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は、`cs_CZ`、`da_DK`、`de_DE`、`en_US`、`es_ES`、`fr_FR`、`is_IS`、`it_IT`、`ja_JP.eucJP`、`ko_KR.eucKR`、`nl_NL`、`no_NO`、`pt_PT`、`ru_RU.kOI8r`、`sl_SI`、`sv_SE`、`uk_UA`、`zh_CN.GB2312`、`zh_TW.Big5` です。
- `ldap` *ldap* – サーバーに LDAP を設定します。有効な値は `true` および `false` です。
- `ldapserver` *ldapserver* – LDAP サーバー名を指定します。
- `ldapbasename` *ldapbasename* – LDAP サーバーのベース名を指定します。
- `name` *name* – OS プロファイルの名前を変更します。
- `nis` *nis* – インストールされているサーバーの NIS を有効にします。有効な値は、`enabled`、`disabled` です。
- `nisdomain` *nisdomain* – インストールされているサーバーの NIS ドメインを指定します。
- `nissserver` *nissserver* – インストールされているサーバー用の NIS サーバーを指定するか、インストールに使用可能な NIS サーバーを自動的に検索する `broadcast` を設定します。
- `proxy` *proxy* – インストールされているサーバー上でプロキシサーバーを有効または無効にします。有効な値は、`enabled` (デフォルト)、`disabled` です。プロキシサーバーを指定するには、`ftpproxy` および `httpproxy` 属性を使用します。
- `rebootafterinstall` *rebootafterinstall* – インストール後にシステムを再起動します。有効な値は `true` および `false` です。
- `rootpassword` *rootpassword* – インストールされているサーバーの `root` パスワードを変更します。

- `timezone timezone` – インストール場所のタイムゾーンを指定します。デフォルト値は `gmt` です。SUSE プロファイルの場合、有効な値は `timeconfig` コマンドで示されるタイムゾーンのいずれかです。

set role

ロールの説明を変更します。

形式

- ロールの説明を変更する場合
`set role role description description`

パラメータ

- *role* – ロールの名前です。
- *description* – ロールの新しい説明です。

set server

プロビジョニング可能なサーバーの構成情報を変更するか、サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新します。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーの構成を変更する場合
`set server server configuration-attributes`
- サーバーの現在の設定および状態で N1 System Manager を更新する場合
`set server server refresh`
- プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用されている IP アドレスおよび SSH 資格を変更する場合
`set server server agentip agentip agentssh agentssh`
- プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用する SNMP 資格を設定する場合
`set server server agentsnmp agentsnmp`
- プロビジョニング可能なサーバーの監視を有効または無効にする場合
`set server server monitored monitored-state`

- サーバー用に監視タイプでポーリング間隔を設定する場合

```
set server server monitor monitor interval interval
```

- プロビジョニング可能なサーバー上のロケータランプを点灯または消灯する場合

```
set server server locator locator-state
```

- プロビジョニング可能なサーバー上で、OS リソース属性のしきい値を設定する場合

```
set server server threshold threshold [criticallow value] [criticalhigh value]  
[warninglow value] [warninghigh value]
```

パラメータ

- *agentip* – プロビジョニング可能なサーバーで OS によって使用される IP アドレスを変更します。サーバー上のプロビジョニング可能なネットワークインタフェースの IP アドレスでなければなりません。
- *agentsnmp* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SNMP 資格を指定します。*agentsnmp* の形式は、SNMP 資格の読み取りコミュニティ文字列です。例: *read-community*。
- *agentssh* – プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視に使用される SSH 資格を指定します。SSH ユーザーは、プロビジョニング可能なサーバーの root 権限が必要です。*agentssh* は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。
ssh-username/ ssh-password。
- *interval* – 監視のためのポーリング間隔を秒単位で設定します。有効な値はゼロより大きな整数です。
- *locator-state* – サーバーのロケータランプを点灯または消灯します。有効な値は *true* (点灯) および *false* (消灯) です。
- *monitor* – ポーリング間隔を設定するためにサーバーの監視タイプを指定します。有効な値は、*hardwarehealth*、*osresources*、*network* です。
- *monitored-state* – プロビジョニング可能なサーバーの監視を有効または無効にします。有効な値は *true* (有効) および *false* (無効) です。
- *refresh* – サーバーの現在の設定および状態で管理サーバーを更新します。更新される情報には、監視情報や現在インストールされているソフトウェア、その他詳細情報があります。
- *server* – サーバーの管理名です。
- *threshold* – 1 つ以上のしきい値を設定する OS リソース属性を選択します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *cpustats.loadavg1min* – システムロードは、1 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg5min* – システムロードは、5 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。
 - *cpustats.loadavg15min* – システムロードは、15 分を超えるキュープロセスの平均数で示されます。

- `cpustats.pctusage` – 全体的な CPU 使用率 (%) です。
- `cpustats.pctidle` – 全体的な CPU アイドル率 (%) です。
- `memusage.pctmemused` – メモリーの使用率 (%) です。
- `memusage.pctmemfree` – 空きメモリー率 (%) です。
- `memusage.mbmempused` – 使用メモリー (M バイト) です。
- `memusage.mbmempfree` – 空きメモリー (M バイト) です。
- `memusage.pctswapused` – スワップ領域の使用率 (%) です。
- `memusage.mbswapfree` – 空きスワップ領域 (M バイト) です。
- `fsusage.pctused` – ファイルシステム領域の使用率 (%) です。
- *value* – プロビジョニング可能なサーバー上で OS リソース使用用のしきい値を設定します。`criticallow`、`criticalhigh`、`warninglow`、`warninghigh` しきい値の有効な値は属性によって異なります。パーセンテージで示される属性の有効な値の範囲は、0 から 100 です。*none* 値は、そのしきい値の属性の監視を無効にします。

構成関係の属性

- `agentsnmp agentsnmp` – プロビジョニング可能なサーバーでの OS 監視用の SNMP 資格を指定します *agentsnmp* の形式は、SNMP 資格の読み取りコミュニティ文字列です。例: *read-community*。
- `ip ip` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスを変更します。
- `ipmi ipmi` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの IPMI 資格を変更します。*ipmi* 値は IPMI パスワードです。
- `name name` – サーバーの名前を変更します。
- `note note` – サーバーのメモを変更します。
- `snmp snmp` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SNMP 資格を変更します。*snmp* の形式は、SNMP 資格の読み取りコミュニティ文字列です。例: *read-community*。
- `ssh ssh` – サーバーの管理ネットワーク IP アドレスの SSH 資格を変更します。*ssh* の形式は、SSH 資格のユーザー名/パスワードの組み合わせです。例: *ssh-username/ssh-password*。

set session

このコマンドは、現在のセッションのユーザーロールまたは出力形式を変更します。

形式

- 現在のセッションでのユーザーのロールを変更する場合


```
set session role role
```
- 現在のセッションでの出力形式を変更する場合

```
set session output output
```

パラメータ

- *output* – 現在のセッション用の出力形式です。有効な値は、text (デフォルト)、html、xml です。
- *role* – 新しいロールの名前です。

set user

ユーザーのデフォルトロールを変更します。

形式

- ユーザーのデフォルトロールを変更する場合

```
set user user defaultrole defaultrole
```

パラメータ

- *defaultrole* – ユーザーに対する新しいデフォルトロールの名前です。
- *user* – ユーザーの名前です。

show

オブジェクトまたはグループの概要または詳細情報を一覧表示します。

機能説明

show コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。firmware、group、job、log、notification、os、osprofile、privilege、role、server、session、update、user です。

help show *object* コマンドで詳細情報を得ることができます。

show firmware

すべてのコピーされたファームウェアアップデートを一覧表示するか、特定のファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのファームウェアアップデートを一覧表示する場合

```
show firmware [all]
```

- ファームウェアアップデートのリストを選別する場合

```
show firmware [model model] [type type] [vendor vendor]
```

- ファームウェアアップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show firmware firmware
```

パラメータ

- *all* – すべてのファームウェアアップデートを一覧表示します。
- *firmware* – ファームウェアアップデートの名前です。
- *model* – ファームウェアアップデートの一覧をモデル名で選別します。有効な値には次のようなものがあります。
 - NETRA-240 – Netra 240
 - SF-V210 – Sun Fire V210
 - SF-V240 – Sun Fire V240
 - SF-V250 – Sun Fire V250
 - SF-V440 – Sun Fire V440
 - V20z – Sun Fire V20z
 - V40z – Sun Fire V40z
 - X4100 – Sun Fire X4100
 - X4200 – Sun Fire X4200
- *type* – ファームウェアアップデートのリストを選別します。このフィルタは、Sun Fire V20z および Sun Fire V40z システムのファームウェアアップデートの場合のみ使用可能です。有効な値には次のようなものがあります。
 - BIOS – サーバプラットフォームの BIOS です。
 - PIC – サービスプロセッサのオペレータパネルです。
 - SP – サービスプロセッサです。
- *vendor* – ファームウェアアップデートの一覧をベンダーに基づいて選別します。

show group

すべてのサーバグループを一覧表示するか、特定のサーバグループの詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべてのサーバグループを一覧表示する場合

```
show group [all]
```

- サーバグループの詳細情報を一覧表示する場合

```
show group group
```

パラメータ

- *all* – すべてのサーバグループを一覧表示します。
- *group* – サーバグループの名前です。

show job

すべてのジョブ、特定のジョブの詳細情報、または指定したフィルタに従って選別されたジョブを一覧表示します。

形式

- 特定のジョブの詳細情報を一覧表示する場合

```
show job job
```

- すべてのジョブを降順に一覧表示する場合

```
show job all
```

- ジョブ一覧をフィルタで選別する場合

```
show job [count count] [endbefore endbefore] [endafter endafter] [owner owner] [startbefore startbefore]
```

パラメータ

- *all* – すべてのジョブを降順に一覧表示します。
- *count* – 降順に一覧表示するジョブ数です。デフォルトは 500 です。
- *endafter* – 特定の日時より後に完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *endbefore* – 特定の日時より前に完了したジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *job* – ジョブの識別番号です。
- *server* – サーバの管理名です。特定のサーバに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
- *startafter* – 特定の日時より後に開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *startbefore* – 特定の日時より前に開始されたジョブを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *state* – 特定のジョブ状態に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。

- `completed` – 完了したジョブを一覧表示します。
- `error` – エラー終了したジョブを一覧表示します。
- `notstarted` – 開始されなかったジョブを一覧表示します。
- `preflight` – 事前実行、テスト状態のジョブを一覧表示します。
- `pendingstop` – ユーザーによって取り消されたジョブを一覧表示します。
ジョブを取り消すには、すべてのサーバーでジョブの現在のステップが終了している必要があります。終了するまで、ジョブはこの状態になります。
- `running` – 現在実行中のジョブを一覧表示します。
- `stopped` – 取り消されたか、中止されたジョブを一覧表示します。
- `timedout` – タイムアウトして完了しなかったジョブを一覧表示します。
- `warning` – 警告で完了したジョブを一覧表示します。
- `type` – 特定のジョブの種類に基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。
 - `addbase` – 基本管理サポート追加
 - `addosmonitor` – OS 監視サポート追加
 - `createos` – メディア (CD/DVD) または ISO ファイルから OS ディストリビューションを作成
 - `deletejob` – ジョブ削除
 - `discover` – サーバー検出
 - `loadfirmware` – ファームウェアアップデートのロード
 - `loados` – OS のロード
 - `loadupdate` – OS アップデートのロード
 - `refresh` – サーバー更新
 - `removeosmonitor` – OS 監視サポート削除
 - `reset` – サーバーの再起動
 - `setagentip` – OS 監視サポートの変更
 - `start` – サーバーの電源投入
 - `startcommand` – リモートコマンドの実行
 - `stop` – サーバーの電源切断
 - `unloadupdate` – OS アップデートのアンロード
- `owner` – ユーザー名です。特定のユーザーに基づいて、すべてのジョブを一覧表示します。

日時の表示形式

`endbefore`、`endafter`、`startbefore`、および `startafter` オプションには、XML スキーマに基づく次の日時の表示形式を使用します。

[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]

- CC – 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の CC は 19、2007 年の CC は 20 です。
- YY – 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (CC) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- MM – 月を示す数です。
- DD – その月の日を示す数です。DD の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- T – 日付/時刻の区切り文字です。
- hh – 時を示す数 (24 時間制) です。hh の値は 0 から 23 の範囲です。
- mm – 分を示す数です。mm の値は 0 から 59 の範囲です。
- ss – 秒を示す数です。ss の値は 0 から 60 の範囲です。
- z – 協定世界時 (UTC)であることを示します。

show log

N1 System Manager またはプロビジョニング可能なサーバーに記録されているすべてのイベント、特定のイベントの詳細情報、または特定のフィルタに基づくイベントを一覧表示します。

形式

- 特定のイベントの詳細情報を一覧表示する場合

```
show log log
```
- イベントを降順に一覧表示する場合デフォルトでは、最新の 500 個のイベントが一覧表示されます。

```
show log [count count]
```
- イベント一覧をフィルタで選別する場合

```
show log [after after] [before before] [count count] [severity severity]
```

パラメータ

- *after* – 特定の日時より後のイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *before* – 特定の日時より前のイベントを一覧表示します。詳細な日時の形式は下記を参照してください。例: 2005-07-20T11:53:04
- *count* – 降順に一覧表示するイベント数です。デフォルトは 500 です。
- *log* – イベントの識別番号です。
- *severity* – 特定の重要度のイベントを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。

- unknown
- other
- information
- warning
- minor
- major
- critical
- fatal

日時の表示形式

after および before オプションには、XML スキーマに基づく次の日時の表示形式を使用します。

[CC]YY[-MM[-DD[Thh[:mm[:ss[Z]]]]]]

- CC – 世紀を示す 00 から 99 の範囲の 10 進数 (年を 100 で除算し、整数に切り捨てた値) です。たとえば 1988 年の CC は 19、2007 年の CC は 20 です。
- YY – 年を示す数の下 2 桁です。世紀 (CC) が省略された場合、69 から 99 の範囲の値は 1969 から 1999 年を表し、00 から 68 は 2000 から 2068 年を表します。
- MM – 月を示す数です。
- DD – その月の日を示す数です。DD の値は、月と年度に従って 1 から 31 の範囲で値を取ります。
- T – 日付/時刻の区切り文字です。
- hh – 時を示す数 (24 時間制) です。hh の値は 0 から 23 の範囲です。
- mm – 分を示す数です。mm の値は 0 から 59 の範囲です。
- ss – 秒を示す数です。ss の値は 0 から 60 の範囲です。
- Z – 協定世界時 (UTC) であることを示します。

show notification

すべての通知規則を一覧表示するか、特定の通知規則の詳細情報を一覧表示します。

形式

- すべての通知規則を一覧表示する場合

```
show notification [all]
```
- 特定の通知規則の詳細情報を一覧表示する場合

```
show notification notification
```

パラメータ

- all – すべての通知規則を一覧表示します。
- notification – 通知規則の名前です。

show os

N1 System Manager から使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示するか、特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os [all]
```
- 特定の OS の種類で使用可能な OS ディストリビューションを一覧表示する場合

```
show os type
```
- 特定の OS ディストリビューションの詳細情報を一覧表示する場合 (ディストリビューショングループの一覧を含む)

```
show os os
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS ディストリビューションを一覧表示します。
- *os* – OS ディストリビューションの名前です。
- *type* – OS ディストリビューションの種類です。有効な値は、*redhat*、*solaris*、*sles9* (SUSE LINUX Enterprise Server 9) です。

show osprofile

使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示するか、特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile [all]
```
- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS プロファイルを一覧表示する場合

```
show osprofile os os
```
- 特定の OS プロファイルの詳細情報を一覧表示する場合

```
show osprofile osprofile
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS プロファイルを一覧表示します。
- *osprofile* – OS プロファイルの名前です。

- *os* – フィルタ条件として使用する OS ディストリビューションの名前です。

show privilege

使用可能なすべての権限を一覧表示するか、特定の権限の詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての権限を一覧表示する場合

```
show privilege [all]
```

- 特定の権限の詳細情報を一覧表示する場合

```
show privilege privilege
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての権限を一覧表示します。
- *privilege* – 権限の名前です。

show role

このコマンドは、すべての使用可能なロールまたは特定のロールの権限を一覧表示します。

形式

- すべての使用可能なロールおよびそれらに割り当てられた権限を一覧表示する場合

```
show role [all]
```

- 特定のロールの権限を一覧表示する場合

```
show role role
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべてのロールとそれらのロールに割り当てられている権限を一覧表示します。
- *role* – ロールの名前です。

show server

使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーかフィルタで選別したプロビジョニング可能なサーバー、または特定のサーバーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示する場合

```
show server [all]
```

- 特定のプロビジョニング可能なサーバーの詳細情報を一覧表示する場合

```
show server server
```

- さまざまな状態に基づいてフィルタで選別し、プロビジョニング可能なサーバーを一覧表示する場合

```
show server [health health] [monitored monitored-state] [power power] [utilization utilization]
```

パラメータ

- *all* – 使用できるすべてのプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示します。
- *health* – ハードウェアの健全性状態に基づいてフィルタで選別し、プロビジョニング可能なサーバーを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *good* – サーバーのハードウェアは正しく機能しています。
 - *unknown* – サーバーからハードウェアの健全性状態に関する情報が返されません。
 - *unreachable* – サーバーにアクセスできず、ハードウェアの健全性状態に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
 - *nonrecoverable* – サーバーが、まったく機能できない状態です。回復できません。
 - *critical* – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - *warning* – サーバーで潜在的な、またはすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。
 - *unmonitored* – 監視が無効にされているため、サーバーからハードウェアの健全性状態に関する情報が返されません。
- *monitored-state* – プロビジョニング可能なサーバーを監視状態に基づいて一覧表示します。有効な値は *true* (監視が有効でプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示) および *false* (監視が無効でプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示) です。
- *server* – サーバーの管理名です。
- *power* – 特定の電源状態に基づいてプロビジョニング可能なサーバーを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。
 - *on* – サーバーの電源が入り、動作しています。
 - *standby* – サーバーの電源は停止していますが、起動などのコマンドに応答できる状態です。
 - *unknown* – サーバーから電源の状態情報が返されません。

- `unreachable` – サーバーにアクセスできず、電源状態に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
- `utilization` – 特定の OS リソースの状態に基づいてフィルタで選別し、プロビジョニング可能なサーバーを一覧表示します。有効な値には次のようなものがあります。
 - `good` – OS が起動し、サーバーは正しく機能しています。
 - `unknown` – サーバーから OS リソースの状態に関する情報が返されません。
 - `unreachable` – サーバーにアクセスできず、OS リソースの状態に関する情報が得られません。この状態は、ほとんどの場合ネットワーク上の問題によって発生します。
 - `critical` – サーバーで障害が発生しました。適切な処置が必要です。
 - `warning` – サーバーで潜在的な、またすぐに発生する可能性のある障害が検出されました。問題が重大になる前に対策を取ることを推奨します。
 - `unmonitored` – 監視が無効にされているため、サーバーから OS リソースの状態に関する情報が返されません。
 - `uninitialized` – OS 監視サポートが追加されていないために、サーバーが OS リソースの状態に関する情報を送信していません。

show session

セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

形式

- セッションでのユーザーの現在のロールを一覧表示します。

```
show session
```

show update

すべての OS アップデートを一覧表示するか、特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update [all]
```

- 特定の OS ディストリビューションに使用可能な OS アップデートを一覧表示する場合

```
show update os os
```

- 特定の OS アップデートの詳細情報を一覧表示する場合

```
show update update
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべての OS アップデートを一覧表示します。
- *os* – リストの選別に使用する OS ディストリビューションの名前です。
- *update* – OS アップデートの名前です。

show user

使用可能なすべてのユーザーを一覧表示するか、特定のユーザーの詳細情報を一覧表示します。

形式

- 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示する場合

```
show user [all]
```

- 特定のユーザーの詳細情報 (ユーザーに割り当てられているロールおよびデフォルトのロールを含む) を一覧表示する場合

```
show user user
```

パラメータ

- *all* – 使用可能なすべてのユーザーを一覧表示します。
- *user* – ユーザーの名前です。

start

オブジェクトを有効にするか、コマンドを発行します。たとえばプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れて起動したり、通知規則を有効にしたりできます。

機能説明

`start` コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 `group`、`notification`、`server`。

`help start object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

start group

プロビジョニング可能なサーバーグループの電源を入れて起動するか、サーバーグループでリモートコマンドを発行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループの電源を入れ、起動する場合

```
start group group [netboot]
```
- サーバーのグループでリモートコマンドを発行する場合

```
start group group command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```

パラメータ

- *agentssh* – リモートコマンド用に、プロビジョニング可能なサーバー上で SSH 資格をオーバーライドします。
- *command* – サーバーのグループ上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *group* – サーバーグループの名前です。
- *netboot* – グループ内の各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用しているネットワーク上にサーバーをインストールすることができます。
- *timeout* – コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

start notification

通知規則を有効にする、またはテストします。

形式

- 通知規則を有効にする場合

```
start notification notification
```
- 通知規則の送信先および種類に基づいてテスト用の通知メッセージを送信する場合

```
start notification notification test
```

パラメータ

- *notification* – 通知規則の名前です。
- *test* – 通知規則をテストします。

start server

プロビジョニング可能なサーバーの電源を入れて起動するか、プロビジョニング可能なサーバーでリモートコマンドを遠隔から発行します。開始した関連付けられたジョブからリモートコマンドの出力を表示することができます。

形式

- すべてのプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れ、起動する場合

```
start server all [netboot]
```
- 1つ以上のプロビジョニング可能なサーバーの電源を入れ、起動する場合

```
start server server[,server...] [netboot]
```
- 1つ以上のサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server server[,server] command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```
- すべてのサーバー上で、遠隔からリモートコマンドを発行する場合

```
start server all command "command" [agentssh agentssh] [timeout timeout]
```

パラメータ

- *agentssh* – リモートコマンド用に、プロビジョニング可能なサーバー上で SSH 資格をオーバーライドします。
- *all* – すべてのプロビジョニング可能なサーバー上で電源を入れる、またはリモートコマンドを発行します。
- *command* – プロビジョニング可能なサーバー上で実行する UNIX コマンドです。コマンドは引用符で囲む必要があります。開始した関連付けられたジョブからコマンドの出力を表示することができます。
- *netboot* – 各サーバーに対して、それらのデフォルトのネットワーク起動インタフェースからの起動を強制します。このオプションを使用すると、N1 System Manager 環境の外部で構成する必要があるインストールサーバー設定を使用しているネットワーク上にサーバーをインストールすることができます。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。
- *timeout* – コマンドをタイムアウトさせるまでの秒数です。

stop

オブジェクトを無効にします。たとえばプロビジョニング可能なサーバーを停止して電源をオフにしたり、ジョブを取り消したりできます。

機能説明

stop コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。group、job、notification、server。

`help stop object` コマンドで詳細情報を得ることができます。

stop group

プロビジョニング可能なサーバーグループを停止して電源をオフにします。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループを停止して電源をオフにします。

```
stop group group [force]
```

パラメータ

- `force` – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。このオプションは、OS がインストールされていないプロビジョニング可能なサーバーの電源の停止に使用してください。
- `group` – サーバーグループの名前です。

stop job

ジョブの実行を停止します。停止されたジョブは、`aborted` 状態になります。

形式

- 単一ジョブの実行を停止します。

```
stop job job
```

パラメータ

- `job` – ジョブの識別番号です。

stop notification

通知規則を無効にします。

形式

- 通知規則を無効にします。

```
stop notification notification
```

パラメータ

- *notification* – 通知規則の名前です。

stop server

プロビジョニング可能なサーバーを停止して電源をオフにします。

形式

- 1 つ以上のサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server server[,server...] [force]
```

- すべてのサーバーを停止して電源をオフにする場合

```
stop server all [force]
```

パラメータ

- *all* – プロビジョニング可能なすべてのサーバーを停止して電源をオフにします。
- *force* – 通常の停止手続きを行わずに強制的に電源をオフにします。指定がない場合、デフォルトで通常の停止が実行されます。このオプションは、OS がインストールされていないプロビジョニング可能なサーバーの電源の停止に使用してください。
- *server* – プロビジョニング可能なサーバーの管理名です。

unload

プロビジョニング可能なサーバーまたはサーバーグループからソフトウェアをアンインストールします。

機能説明

unload コマンドは、次のオブジェクトに使用することができます。 *group* および *server*。

`help unload object` コマンドで詳細情報を得ることができます

unload group

プロビジョニング可能なサーバーグループから OS アップデートをアンインストールします。

形式

- プロビジョニング可能なサーバーグループから OS アップデートをアンインストールします。

```
unload group group update update
```

パラメータ

- *group* – サーバーグループの名前です。
- *update* – OS アップデートの名前です。ユーザー (指定された名前) が見つからない場合は、このコマンドは、一致するファイル名がある OS アップデートのアンインストールを試みることに注意してください。show update コマンドで OS アップデートに対応するファイル名を一覧表示することができます。

unload server

プロビジョニング可能なサーバーから OS アップデートをアンインストールします。

形式

- プロビジョニング可能な 1 つ以上のサーバーから OS アップデートをアンインストールします。

```
unload server server[,server...] update update
```

パラメータ

- *server* – 1 つ以上のサーバーの管理名です。
- *update* – OS アップデートの名前です。ユーザー (指定された名前) が見つからない場合は、このコマンドは、一致するファイル名がある OS アップデートのアンインストールを試みます。show update コマンドで OS アップデートに対応するファイル名を一覧表示することができます。

オブジェクトのヘルプ

ここでは、N1 System Manager コマンドで管理可能なオブジェクトについて説明します。

使用可能なオブジェクトを次の表に示します。

オブジェクト	定義
firmware	プロビジョニング可能なサーバー用のファームウェアアップデートです。
group	プロビジョニング可能なサーバーのグループです。
job	特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。
log	プロビジョニング可能なサーバー、または N1 System Manager から生成されたイベントです。
notification	ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。
os	OS のバイナリディストリビューションです。OS ディストリビューションとも呼びます。
osprofile	OS プロファイル。OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。
privilege	N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする、定義済みのアクセス権セットです。権限は、ロールに権限を割り当て、そのロールをユーザーに割り当てることによってユーザーに付与します。
role	N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の 3 つの定義済みロールがあります。ReadOnly、SecurityAdmin、Admin。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できません。ただしユーザーが定義済みのロールを変更することはできません。
server	プロビジョニング可能なサーバー。N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。
session	アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび n1sh コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが 1 つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。
update	OS アップデート (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたはパッケージ、Red Hat オペレーティングシステムの場合は RPM)。
user	N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。

firmware

firmware オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバー用のファームウェアアップデートです。

機能説明

firmware オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 create、delete、set、show。ファームウェアアップデートのインストールには、load server または load group コマンドを使用します。

help command object コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

group

group オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバーのグループです。

機能説明

group オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 add、create、delete、load、remove、reset、set、show、start、stop、unload。

help command object コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

job

job オブジェクトは、特定の管理作業を行うためにユーザーによって開始され、追跡記録される非同期アクションです。

機能説明

job オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 delete、show、stop。

help command object コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

log

log オブジェクトは、プロビジョニング可能なサーバーまたは N1 System Manager から生成されたイベントです。

機能説明

log オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 show。

help command object コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

notification

notification オブジェクトは、ユーザーなどの外部ソースに N1 System Manager イベントを通知するタイミング、その送信先、送信方法を定義するためにユーザーが作成した通知規則です。

機能説明

notification オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 create、delete、set、show、start、stop。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

OS

os オブジェクトは、OS のバイナリディストリビューションです。OS ディストリビューションともいいます。

機能説明

os オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 create、delete、set、show。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

osprofile

osprofile オブジェクトは、OS ディストリビューションのインストール方法を定義した構成ファイルです。

機能説明

osprofile オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 add、create、delete、remove、set、show。OS プロファイルをインストールするには、load server または load group コマンドを使用します。

help *command object* コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

privilege

privilege オブジェクトは、N1 System Manager 内でユーザーが特定の操作を行うことを可能にする定義済みのアクセス権セットです。権限は、ロールに権限を割り当て、そのロールをユーザーに割り当てることによってユーザーに付与します。

機能説明

`privilege` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。`show`。ロールに権限を追加したり、ロールから権限を削除したりするには、それぞれ `add role` および `remove role` コマンドを使用します。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

role

`role` オブジェクトは、N1 System Manager のユーザーに割り当て可能な権限セットです。N1 System Manager には、次の3つの定義済みロールがあります。

`ReadOnly`、`SecurityAdmin`、`Admin`。権限を受けたユーザーは独自のロールを作成できますが、定義済みのロールを変更することはできません。

機能説明

`role` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。`add`、`create`、`delete`、`remove`、`set`、`show`。ユーザーにロールを追加またはユーザーからロールを削除するには、それぞれ `add user` および `remove user` コマンドを使用します。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

server

`server` オブジェクトはプロビジョニング可能なサーバーです。これは、N1 System Manager が検出して管理することが可能なサーバーです。

機能説明

`server` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。`add`、`connect`、`delete`、`load`、`remove`、`reset`、`show`、`start`、`stop`、`unload`。プロビジョニング可能なサーバーの検出には、`discover` コマンドを使用します。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

session

`session` オブジェクトは、アクティブな各ユーザーセッションに関連付けられているロールおよびその他コンテキスト情報です。ブラウザインタフェースおよび `n1sh` コマンド行インタフェースにログインしたユーザーごとに別々のユーザーセッションが1つずつ作成されます。ブラウザインタフェースおよびブラウザインタフェースのコマンド行は、同じセッションを共有するため、同じセッションロールを持ちます。

機能説明

`session` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 `set` および `show`。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

update

`update` オブジェクトは OS アップデートのことです (Solaris オペレーティングシステムの場合はパッチまたは パッケージ、 Red Hat オペレーティングシステムの場合は RPM)。

機能説明

`update` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 `create`、`delete`、`show`。 OS アップデートをインストールするには、 `load server` または `load group` コマンドを使用します。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。

user

`user` オブジェクトは、 N1 System Manager へのログインを許可されたユーザーです。

機能説明

`user` オブジェクトには次のコマンドを使用できます。 `add`、`create`、`delete`、`remove`、`set`、`show`。

`help command object` コマンドで各コマンドの詳細情報を得ることができます。